

受け継がれていく伝統 新たなふれあいを感ずる

世田谷区立給田小学校 学校運営委員会通信

平成24年度 第6号
平成25年2月1日
世田谷区立給田小学校
学校運営委員会
委員長 井上健

11月15日、校長室にて第7回
学校運営委員会が開かれました。

はじめに、土橋校長より、11月の
職員会議の報告がありました。

次に、5年生の総合的な学習「Q-
den Walkerを作ろう」に
ついて、リエゾン・オフィス（以下
リエゾン）より活動報告がありまし
た。土橋校長から「今年度は、事前
学習の授業や発表にもリエゾンにか
かわってもらったことで、より質が高
まった」とお話がありました。

また、4年生の社会科の学習「昔
しらべ」では、資料館の道具につい
て、道具を実際に使っていた千歳民
俗資料保存会の方がたにお話をし
ていただき、子どもたちが興味深く
聞いていた様子が、リエゾンのメンバ
ーで保存会副会長でもある清水さんや
参観した委員から報告されました。

（「学校運営委員会通信」6号「参照」）
さらに、六所神社の例大祭につい
ては「今年度は菅宮の舞台で90人を超
える子どもたちが空手やダンスなど
を披露してくれた。地域行事に参加

することを楽しみにしてくれる子ど
もたちが増えていると感ずる」と委
員より報告がありました。

続いて、次年度の活動について話
し合われました。地域運営学校を推
進していくためには、具体的にはど
のように活動していくのか、まずは、
各委員が意見を出しました。そして、
来年度どうしていきたいか、それを
具体化するためにどんなことができ
るか、各自が意見をまとめて次回委
員会に臨むこととなりました。

最後に、井上委員長より「給田小
の学校運営委員会のメンバーは、さ
まざまな立場の人から構成されてい
るが、保護者の割合が高い。だから
こそ、今の地域運営学校としての給
田小の現状があるというところをよ
く理解したうえで、来年度に向けて考
えていって欲しい」との示唆があり
ました。

12月11日、校長室にて第8回
学校運営委員会が開かれました。

はじめに、土橋校長より「学芸会

のアンケートについて、保護者から
『すべての学年の演技を観たい』と
の希望が多いが、会場の関係で不可
能なのが残念だ』とお話がありまし
た。

また「今回、1年生保護者がまだ
体育館に入りきれないうちに幕開け
となってしまったので、次年度は改
善したい」との報告がありました。

次に、8日に行われたもちつきに
ついて、参加した委員やリエゾンか
ら「今回は、授業のある土曜日を実
施したことで、児童全員が見学し、
つきたてのお餅を食べるといふ改
築前まで続いていた『伝統のスタ
イル』が復活した。8年前にはなかつ
た『新しいつながり』が生まれたこ
とは、地域運営学校の成果ではな
いか」と感想が述べられました。

（4面の関連記事を参照）

また、前回から引き続き次年度の
活動について話し合われました。各
委員は、事前に提出した意見書をも
とに、来年度どのように進めていき
たいか考えを出し合いました。その
後、委員OGであるリエゾンのメン
バーから「これまでの活動を継続す
ることにとらわれずに話し合って進
めて欲しい」との助言がありました。
今回は、委員会の基本方針を確認し
ていくこととなりました。

最後に、リエゾンより「Q-
den Walkerを作ろう」の取り
組みを「学校運営委員会通信・特別
号」として発行したいとの提案があ
り、承認されました。

1月17日、校長室にて第9回
学校運営委員会が開かれました。

はじめに、土橋校長より、1月14
日の積雪で、体育館屋根の雪止めが
破損し、設備の総点検を行うことにな
った旨報告がありました。

次に、来年度の給食ボランティア
について話し合わせ、それに関連し
て、新1年生は5クラスになる見込
みで、食物アレルギーの面談を経て
給食開始は4月17日（水）になる予
定であることが校長から話されまし
た。

続いて、次年度の活動と委員会の
基本方針について話し合われました。
校長より「地域と学校を繋ぐこと
が学校運営委員会の役割。そのため
に委員は何ができるのか考えていき
たい」と提言がありました。これを
受けて、各委員それぞれの立場から、
さまざま意見が出されました。

そして、通信を一層充実させ活動
の中心に据え、委員会でも得られた地
域と学校の情報を積極的に発信して
いくことで、地域と学校をより強く
繋ぐことができるようになるのでは
ないか、との意見で一致し、具体的
なアイデアを出し合ったところで
委員会は終了となりました。

今回の委員会では、具体的な活動
内容について話し合います。

議題

1. 学校長より
2. 委員長より
3. 10月の活動を振り返る
・Q-den walkerを作ろう
4. 次年度の活動を考える

出席者

井上、多田、芝崎、程原、
田中、渡邊、鈴木、溝口、
土橋、片山、安部、鶴岡
リエゾン・オフィス
清水、岡本、若林

議題

1. 学校長より
2. もちつきについて
3. 次年度の活動を考える
(継続)

出席者

多田、芝崎、程原、田中、
渡邊、鈴木、溝口、土橋、
片山、安部、鶴岡
リエゾン・オフィス
岡本、若林

議題

1. 学校長より
2. 通信6号について
3. 給食ボランティアにつ
いて
4. 次年度の活動を考える
(継続)

出席者

多田、芝崎、程原、田中、
渡邊、鈴木、溝口、土橋、
片山、安部、鶴岡

給田小の伝統 「わかたけ活動」

給田小の特色である健康教育は、昭和53年にスタートしました。翌年、当時の文部省から「体力づくり」推進校の指定を受け、「体とともに心も鍛える」が教育の柱として定着していきました。そうした中、異学年交流を通じて、人とかわる力を育てることをめざす「わかたけ活動」が始まったそうです。そこで、給田小の伝統の1つとされている「わかたけ活動」について、どのような目的や意味があるのかを取材してみました。



1年生が迷子にならないよう、6年生が教室までお迎えに行きます。
初回は緊張気味だった1年生も、2回目には迎えに来てくれた6年生に早速話しかけ、嬉しそうに手を繋いでいる姿もたくさんありました。

さて、35年の歴史がある活動ですが、現在は、1年生から6年生まで各学年5〜6人で27の縦割り班を組み、月に1度の割合（年間に9回）で、給食の時間や昼休みに実施されています。
「わかたけ活動」では、子どもたちの自主性を尊重しつつ、1年間かけて、縦の関係をうまく築いていくことができるよう、活動の内容（例えば、ゲームの企画から当日の進行など）は、リーダーを中心とした6年生に任されているそうです。
1学期は、みんなの前で緊張しながら



2学期からは給食も一緒に食べます。学年によって盛りつける量が変わるので、5年生の腕の見せどころです。



「今日のゲームは…」みんなに説明する6年生は、下級生にはとても立派に見えることでしょう。

遊び方の説明をしたり、なかなか馴染めない1年生に寄り添って話しかけたりと、6年生たちは不器用ながらも一所懸命に考えて行動していて、その誠実な態度に感心しました。2学期になると、給食の盛り付けをする5年生に「1年生はそんなに食べられないよ」と目を配り、先生に指示をされなくても給食をさっと食べて次のゲームの打ち合わせをしている姿が見られ、最上級生としての自覚が育っていることを感じました。6年生にとつての「わかたけ活動」は、自分が楽しむだけの時間ではありません。ゲームによっ

「人とかわる力」を育てる わかたけ活動



慣れてくると、ゲームにも熱が入ります。学年に関係なく笑ってじゃれあっています。「みんなが楽しんでくれているといいな」6年生のさりげない思いやりが楽しい時間を作ります。



食事の様子。普段とは違う班、違う教室で食べる給食に、最初は緊張した様子ですが、回を重ねるにつれ、学年をこえて自然なかかわりが生まれてきます。

では、参加せずに進行役に徹していることもしばしばです。けれど、下級生の笑顔を見つめるその表情には、「自分のためだけでなく、みんなのために活動することの喜び」が溢れていました。こうした経験を積み重ねることで、どうしてもっとみんなが楽しく過ごせるか工夫をし、周りの人の気持ちを考えてるようになり、「わかたけ活動」の目的である「人とかわる力」が育っていくのではないのでしょうか。
1〜5年生の中には、いつもと違う教室での給食や、異学年との交流を楽しめず、「わかたけ活動」の時間はちょっと苦手」という子



ありがとう！6年生
6年生は、1月の活動でリーダーの役目を終えます。最上級生として、みんなのために考えて行動する姿は、下級生にはきっと憧れのお兄さんお姉さんとして映ったことでしょう。2月からは5年生にバトンタッチです。6年生はサポートにまわり、伝統が受け継がれていきます。

普段、学校では同じ学年で過ごすことの多い子どもたちですが、「わかたけ活動」があることで、自然と異学年の知り合いが増えていきます。6年生はやがて中学生、高校生になり、在校生にとつては、地域に知り合いのお兄さん・お姉さんができることになりました。また、卒業生にとつても、顔見知りの下級生がたくさん通っている給田小は「懐かしいふるさと」のような存在になっていくに違いありません。
そう考えると、「わかたけ活動」は、子どもたちにとつて、一番身近な地域活動といえるのかもしれない、と感じました。
学校運営委員
溝口よう子

心と心が通い合うひとときを ～図書ボランティア「虹」～



読み聞かせの前には、全員で発声練習。自然と背すじが伸びて、気持ちがシャキッとします。

基本的な活動は、学年ごとに月に1回、1時間目が始まる前の10分間で1冊の絵本を読む「朝の読み聞かせ」です。他に、BOPPでのお話会や図書整理、授業時間をいただいて、パネルシアターや紙芝居、手遊びを一緒に楽しむこともあります。

始めに、どのような活動をしているのか教えてください。

今回は、代表・飛松さん、副代表・瀬戸さん、榎本さん、2年生担当リリー・伊藤さんに、活動や子どもたちの様子をお話いただきました。

平成17年、学校改築が本格的になったこの年、「外で思う存分遊べなくなってしまう子どもたちに何かしてあげたい」とそんな想いから図書ボランティア「虹」が立ち上がりました。改築が終わった今も絵本をわが子だけでなく多くの子どもたちに楽しんでもらいたいと活動を続けています。

幼い頃に親しんだ絵本は、心の栄養になると言われています。みなさんにも今も、懐かしく思い出す絵本があるのではないのでしょうか。

子どもたちの喜ぶ顔が思い浮かびますね。
読み聞かせ当日のクラスの雰囲気

それから、その年の話題をとりあげることもあります。昨年、スカイツリーの絵本を紹介したら、子どもたちは興味津々でした。

子どもたちの喜ぶ顔が思い浮かびますね。

学年ごとにメンバーが集まり、それが絵本を持ち寄りて相談して選んでいます。学校から「授業時間中の活動なので各クラスが同じ体験をできるようにして欲しい」とのリクエストがあり、同学年すべてのクラスで同じ絵本を読んでいます。

たくさんある絵本の中から、どのように選んで読んでいるのですか？

子どもたちが来るのを待っていてくれる時は、感激しました。

嬉しいことに、子どもたちも「読み聞かせ」を楽しみにしてくれているようです。給田小では毎朝、体操着に着替えるのですが、私たちが行くとき、身支度も着替えて、「今日はその本？」とニコニコしながら走り寄ってくれる子どももいます。

読み聞かせが終わった後、子どもたちの反応はどうですか？

朝の読み聞かせで1人の子どもが出会う絵本は、6年間で約90冊になります。その1冊1冊にそれぞれ自分の思い出が生まれます。

先生がたからも「こんな絵本があるんですね」とか「いい本ですね」と声をかけていただいたりして、私たちが学校の雰囲気や様子を自然と感じられるようになりました。ボランティアなどの活動を通して、たくさんの方々と子どもたちが繋がっていると実感することが多くなりました。

他の活動で学校を訪れた時にも、「この前の絵本おもしろかったです。」とか「あつ、読み聞かせの人だ！」と子どもたちから気軽に声をかけられます。そんな時は、学校にいろいろな大人がいることが、子どもたちには当たり前前の風景になったんだなと感じます。

読む手とタテマ全員の「ハー」と息をつくタイミングが合う時があります。子どもたちと会話をしない「コミュニケーション」が取れるんですよ。

大きな成果だと思えました。改築をきっかけに始まった読み聞かせが、給田小の新たな伝統として長く受け継がれることを願います。

BOPPでのお話会が1昨年よりほぼ毎月行われるようになり、大好評です。その様子を子どもたちから聞いた先生と「虹」の間で2学期末の「お話会」（右・写真）の企画が持ち上がり、授業への参画が実現しました。子どもたちがその架け橋となったことは、「虹」の活動の大きな成果だと思えました。

読み聞かせの時間は、絵本を楽しんでいただけでなく子どもたちの世界を広げてくれるのかもしれないですね。

そうですね。ですから私たち大人も子どもたちに誠実に接したいという想いがあります。子どもたちからはいつもいい刺激をもらっています。

12月は、1・2年生の授業に参加して、クリスマスにちなんだお話をしました。大きな絵本の後ろから、手作りの「ぐりとぐら」が飛び出して、みんな大喜びです。

読む手とタテマ全員の「ハー」と息をつくタイミングが合う時があります。子どもたちと会話をしない「コミュニケーション」が取れるんですよ。

創立50周年記念「もちつき会」

冬らしいキリッとした青空が広がる12月8日、給田小学校庭で、千歳民族資料保存会と給田小PTA共催による「もちつき会」が開催されました。

校舎改築後、今年で3回目となる「もちつき会」ですが、創立50周年ということで、月に一度の土曜授業日に合わせ、8年ぶりに全児童が地域に伝わる「かけつき」を見学し、つきたてのおもちを食べるといふ盛大な会になりました。



保存会・麻生会長のご挨拶のあと、ケガや事故のないように「お清め」が行われました

当日は朝6時から、保存会のメンバーとPTA役員さんがランチルームに集まってきます。こんなに早くからお手伝いくださる先生がたもいらっしやいます。ランチルームには前日PTAの係のみなさんがといたもち米60kgが、鍋の中でふっくらふくらんでいました。

その後、YAMATO、PTAの係、給田青穂会のみなさんが続々と集まり、子どもたちが登校し始める頃には準備も整い、もち米を蒸しているポイラーからは真っ白な湯気が立ちのぼっています。いつもとは違った校庭の様子に子どもたちは興味津々。安全確保のために校庭に立っている先生に促されて校舎に入っていきます。

8時半、1年生から改めて校庭に集まり、11時まで、学年ごとに見学しました。子どもたちは「50周年記念Tシャツ」、つき手は



セイロから湯気上げる「もち米」



Q-den Walkerでお世話になったみなさんには5年生が見学の時についていただきました

「給田小の校章をあしらった揃いの法被」を着ています。

臼のまわりを囲んで座るといよいよ「かけつき」の始まりです。4人がリズム良くつ

ぎだすと、子どもたちから「ヨイショ、ヨイショ」と大きな掛け声がかかり、つき手にも力が入ります。YAMATOの代表から「お子さんのいる学年でつきましよう」と提案があり、つく前には「〇〇君のお父さんです」と紹介がありました。お父さんも緊張気味。高学年の女子から「お父さん、しっかりやってよー」と声がかかり、会場がどっと笑いに包まれます。



学年ごとに担任の先生がつくと子どもたちは大喜びです

最後は大きな杵に持ち替えて一人で「あげつき」を行います。返し手が最後に「パチン！」ともちをたたくとつき上がりです。ふっくらとつきあがったおもちを高く掲げると大歓声が上がりました。終わりに子どもたちからお礼の挨拶がありました。

つきあがったおもちをランチルームに運ばれ、保存会の女性陣・プレーパークのメンバーで元PTAの先輩・PTAのみなさんの手によって「き



PTAのお母さん、お父さんも!



おいしい!もっと食べたい!

「できたてのおもちをふわふわしておいしかったです」「世界で一番おいしいおもちを食べました」「初めて見たかけつきは、みんなで協力しておもちができたのですごいと思いました」「あと30個食べたかった」「また来年ももちつきをお願いします」どの手紙にも最後に「ありがとう」との言葉が添えられており、大人たちの疲れを吹き飛ばしてくれました。

「新しい子どもたちからの嬉しいサプライズに加えて、今年の「もちつき会」では「新たなつながり」も感じられました。



もちつきが終わり、古民家でおもちを食べるつき手のみなさん。

ランチルームにわざわざお礼を言いにいらした先生、「5年生の時はおれたちがかけつきするよ」と言ってくれたQ-den Walkerでお世話になった地域のみなさん、YAMATOや先生がたによるかけつき・・・これらは、8年前にはなかったものです。

先生、地域、保護者、子ども、みんなの中に「地域運営学校らしさ」が息づいている、そんなことを感じさせてくれた「もちつき会」でした。

あとがき

昨年度より、給田小の卒業生ということで学校運営委員を務めさせていただいております。

私には子どもがおりませんので、はたしてお役に立てるのかと不安でした。何もわからないまま、運営委員会に参加してみて、委員のみなさんがそれぞれの立場で熱心に「みんなの子どもをみんなで育てる」ことを話し合われていて感じしました。

その後、単戸研修会に出席したり、サマースクールでは子どもたちに書道を教えたりしました。また、卒業証書に子どもたちの名前を書かせていただき、給田小がとても身近に感じられるようになりました。どれも私にとって新鮮でとてもいい経験となりましたこと、大変感謝しております。

地域では、今年の2月2日の任期満了までの2年間「給田青穂会」の会長としておりました。長く続いている地域行事の中で、今までは考えたことなかった「地域で子どもを育てる」という視点が自分の中に生まれていることに気がついた時に、これが「地域運営学校」の伝えたいことなのだと感じました。

給田にお住まいのかた、給田でお仕事されているかた、「給田青穂会」の活動に参加しませんか?大歓迎です!

子どもたちが「この地域に育ってよかった」と思えるように、地域の一人として頑張ります。皆で力を合わせていきましょう。

「継続は力なり」

学校運営委員

田中 邦治

